令和４年度　全国学力・学習状況調査

調　　査　　結　　果

１　調査の概要　１ページ

２　教科に関する調査結果　２～４ページ

３　質問紙調査に関する調査結果　４～６ページ

４　総括　７ページ

令和５年１月

羽幌町教育委員会

令和４年度全国学力・学習状況調査の結果について

１　調査の概要

（１）　調査の目的

○ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

○ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

○ 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）　調査の対象

① 小学校調査　　小学校６学年

② 中学校調査　　中学校３学年

（３）　調査の内容

① 児童生徒に関する調査

・教科に対する調査

・小学校調査（国語・算数・理科）

・中学校調査（国語・数学・理科）

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

・児童生徒に対する調査

・学校に対する調査

（４）　調査期日

令和４年４月１９日（火）

（５）　調査を実施した学校

羽幌小学校

天売小学校

羽幌中学校

天売中学校

２　教科に関する調査結果

（１）　教科に関する小学校調査の結果（国語、算数、理科）

＜ 国語＞

学習指導要領に示されている

【知識及び技能】

① 言葉の特徴や使い方に関する事項

② 情報の扱い方に関する事項

③ 我が国の言語文化に関する事項

【思考力、判断力、表現力等】

①話すこと・聞くこと

②書くこと

③読むこと

に基づいた、選択式・短答式・記述式の３種類とした問題（１４問）

■国語全体の平均正答率は、全道・全国を下回っている。

【知識及び技能】　　全道・全国を上回っている。

【思考力、判断力、表現力等】全道・全国を下回っている。

※令和３年度調査の国語全体も全道・全国を下回っている。

＜ 算数＞

学習指導要領に示されている「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」に関わる問題（16 問）

■算数全体の平均正答率は、全道・全国を下回っている。

「数と計算」　　全道・全国を下回っている。

「図形」　　全道・全国を下回っている。

「測定」　　設問なし。

「変化と関係」　　全道を上回り、全国を下回っている。

「データの活用」　　全道・全国を下回っている。

※ 令和３年度調査の算数全体も全道・全国を下回っている。

＜ 理科＞

学習指導要領に示されている「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域に関わる問題（１７問）

■理科全体の平均正答率は、全道・全国を下回っている。

「エネルギー」　　全道・全国を下回っている。

「粒子」　　全道・全国を下回っている。

「生命」　　全道を上回り、全国を下回っている。
「地球」　　全道・全国を上回っている。
※ 平成３０年度調査の理科全体も全道・全国を下回っている。（理科の実施は平成３０年度以来）

（２） 教科に関する中学校調査の結果（国語、数学、理科）

＜ 国語＞

学習指導要領に示されている

【知識及び技能】

① 言葉の特徴や使い方に関する事項
② 情報の扱い方に関する事項
③ 我が国の言語文化に関する事項

【思考力、判断力、表現力等】

①話すこと・聞くこと
②書くこと
③読むこと

に基づいた、選択式・短答式・記述式の３種類とした問題（１４問）

■国語全体の平均正答率は、全道・全国を下回っている。

【知識及び技能】　　全道・全国を下回っている。
【思考力、判断力、表現力等】全道・全国を下回っている。
※令和３年度調査の国語全体は全国を上回っている。

＜ 数学＞

今後の学習において活用される基礎的・基本的な知識及び技能や、その知識及び技能の活用課程を基準とした「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の問題（１４問）

■数学全体の平均正答率は全国・全道を下回っている。

「数と式」全道・全国を下回っている。
「図形」全道・全国を上回っている。
「関数」全道・全国を下回っている。
「データの活用」全道・全国を下回っている。
※令和３年度調査の数学全体は全道・全国を下回っている。

＜ 理科＞

学習指導要領に示されている「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域に関わる問題（２１問）

■理科全体の平均正答率は、全道・全国を下回っている。

「エネルギー」　　全道・全国を下回っている。
「粒子」　　全道・全国を下回っている。

「生命」　　全道・全国を下回っている。
「地球」　　全道・全国を下回っている。
※ 平成３０年度調査の理科全体は全道・全国を上回っている。（理科の実施は平成３０年度以来）

３　質問紙調査の結果

（１）児童・生徒に関する質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する事項を主に、小学校 69 項目・中学校６９項目について、児童・生徒に質問紙調査を実施

＜全道・全国と比較した主な傾向：**小学校**＞
■朝食を毎日食べている割合が低い傾向にある。
■平日１日当たりのゲーム（コンピュータゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話等を使用したゲーム）をしている時間が多い傾向にある。また、携帯電話やコンピュータの使い方について家族との約束を守っていない・約束はない割合が多い傾向にある。
■家で自分で計画を立てて勉強している割合は低く、平日・休日の授業時間以外の勉強時間が少ない傾向にある。
■家にある本（雑誌、新聞、教科書を除く）は多い傾向にあるものの、平日、学校の授業時間以外で読書を全くしない割合が多い。
■授業中の PC・タブレット等の ICT 機器の使用頻度が低く、学校や家庭でスマートフォン等のＩＣＴ機器を勉強のために使っている割合は低い傾向にある。
■学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる事が出来た割合が低い傾向にある。
■算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないかを考える割合が高い傾向にある。
■理科の勉強は大切だと思う割合や、理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える割合が低い。

＜全道・全国と比較した主な傾向：**中学校**＞
■朝食を毎日食べている割合が低い傾向にある。
■テレビゲームや携帯電話・スマートフォンで SNS や動画視聴などをする時間が長い傾向にある。
■家で自分で計画を立てて勉強している割合や、授業時間以外に勉強する時間が少ない傾向にある。
■家にある本（雑誌、新聞、教科書を除く）は多い傾向にあり、平日、学校の授業時間以外で 10 分以上読書をする割合が多い。

■地域の行事に参加している割合は多い傾向にある。
■学校でＩＣＴ機器を他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために使用する頻度が少ない傾向にある。
■国語の勉強が好きな割合が高い傾向にある。
■数学の勉強が好きな割合が低い傾向にある。
■数学の授業の内容はよくわかる割合が少ない傾向にある。
■理科の勉強が好きな割合は低い傾向にある。
■国語・数学・理科いずれも回答時間は十分だった割合が多い傾向にある。

（２）学校に関する質問紙調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況等に関する調査（授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況）に関する事項を主に、学校に質問紙調査を実施

＜全道・全国と比較した主な傾向：**小学校**＞

【ICT について】

ICT の活用による、教職員等会議に関する事務は軽減したと回答している一方で、プロジェクターや電子黒板等を活用した授業・教職員と家庭との間の連絡への ICT 機器の活用度は低い。また１人１台端末の利活用は、家庭学習や特別支援児童に対する支援において進んでいない状況にあるほか、児童の特性・学習進度等に応じた指導への活用は学校間格差が激しい状況にある。

【教員同士・地域との連携等】

「教員が授業で問題を抱えている場合，率先してそのことについて話し合うことを行った」、「指導計画の作成に当たっては，教育内容と，教育活動に必要な人的・物的資源等を，地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせて行った」との回答があり、教員同士・地域と連携して教育に当たる意識は高い。

【グループでの話し合い】

自分の考えをしっかり相手に伝えること・相手の考えを最後まで聞くことが出来る傾向が強い。

【算数の指導法】

少人数指導・習熟度に応じた指導についてはまだ進んでいない。

【総合学習等】

「総合的な学習の時間において，課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導を行った。」、「学級生活をよりよくするために，学級会で話し合い，互

いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行った。」、「特別の教科 道徳において，児童自らが自分自身の問題として捉え，考え，話し合うような指導の工夫をしている。」、「児童のよい点や改善点等を積極的に評価し，学習したことの意義や価値を実感できるようにしている。」、「創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう，評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や，学年会や教科等部会等の校内組織の活用等，組織的かつ計画的な取組をしている。」、「職場見学を行っている。」等の回答の頻度が高く、児童が自発的に考えることや、成長の過程を振り返る時間をしっかりと設けている傾向がある。

＜全道・全国と比較した主な傾向：**中学校**＞

【ICT】

「ＩＣＴを活用した校務の効率化を通じて，生徒の出欠・遅刻に関する事務は軽減した。」と回答している一方で、「ＩＣＴ機器の活用に関して，学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がある。」。「教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で，コンピュータなどのＩＣＴ機器をどの程度活用している。」との回答は低頻度で、「生徒一人一台端末などのＩＣＴ機器の家庭におけるオンライン学習の活用度」も低い。

【教員同士・地域との連携等】

「教員が授業で問題を抱えている場合，率先してそのことについて話し合うことを行った。」、「教員が学級の問題を抱えている場合，ともに問題解決に当たることを行った。」、「指導計画の作成に当たっては，各教科等の教育内容を相互の関係で捉え，学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で，その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列した。」との回答が高頻度だった。

【教員の校外研修】

「個々の教員が自らの専門性を高めるため，校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している。」との回答が高頻度だった。

【教育課程の編成等】

「生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき，教育課程を編成し，実施し，評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立している。」との回答が高頻度だった。

【数学の指導法】

「観察や操作，実験等の活動を通して，数量や図形等の性質を見いだす活動を行いった。」との回答が高頻度で見られた一方、少人数指導・習熟度に応じた指導についてはまだ進んでいない。

４　総括

今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、小学校調査では国語・算数・理科いずれも全道・全国の平均正答率を下回っているが、国語【知識及び技能】・理科【地球】分野は全道・全国平均を上回り、算数【変化と関係】・理科【生命】についても全道平均を上回っている。全国の平均正答率との差も令和 3 年度と比べて縮まってきている。しかしながら、小学校では児童の生活習慣や毎日の学習時間に課題がみられる状況に変化はなく、今後も継続して改善の取組を行う必要がある。

中学校調査では、国語・数学・理科いずれも全道・全国の平均正答率を下回っており、令和３年度調査時の平均正答率との差が広がっている。「生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき，教育課程を編成し，実施し，評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立している」こと等により一定の効果が出ているものと考えられるが、ICT の利活用や生徒の生活習慣には課題が見られる。

今後は、これらの調査及び分析結果に基づき、これまでの取組に係る成果を踏まえつつ、保護者や地域などの理解や協力を得ながら改善に向け積極的に取り組むなど、児童生徒の生活改善・意識の醸成を図り、総体的に学力向上へ取り組んでいく必要がある。